

広義流動性の季節調整替えについて

- ・ 広義流動性の推計方法等の見直しに伴い、広義流動性の季節調整替えを実施しましたのでお知らせします。新ベースの広義流動性に関する季節調整方法の概要は、以下のとおりです。

- 1) 米国センサス局 X-12-ARIMA (ベータバージョン) を使用。
- 2) 各系列とも対数変換を実施。事前調整における異常値、レベルシフト、ランプの判定基準は 3.3σ 超。
 季節調整に用いたデータは、各データ系列の始期から 99 年 12 月までとし、その後の 1 年間は季節要素の予測値を用いて季節調整値を作成。

指標名	季節 ARIMA モデル	曜日調整	データ始期
広義流動性	(111) (110) ₁₂	なし	1980 年 1 月

- (注) 1. 今回の見直し作業の結果、季節 ARIMA モデルを変更 [(111)(011)₁₂→(111)(110)₁₂]。
2. 98 年 4 月の統計見直し (対象金融機関の拡充) により、広義流動性には、(a)内訳コンポーネントである M 2 + C D 等に在日外銀等を含むベース (98 年 4 月以降公表開始) と (b)同含まないベース (99 年 3 月まで公表、それ以降は作成取り止め) の 2 系列が存在する。このため、季節調整値の算出に際しても 2 系列それぞれに関して計算しているが、結果的に季節 ARIMA モデルは同一のものとなっている。なお、算出に利用したデータは、以下のとおりである。

((a)のデータ)	80 年 1 月から 99 年 12 月までのデータを用いて算出。ただし、98 年 4 月以降は、今回、公表した遡及計数 (M 2 + C D 等に在日外銀等を含むベース) を用いている。なお、レベルシフトなし。
((b)のデータ)	80 年 1 月から 99 年 3 月までのデータを用いて算出。ただし、96 年 1 月以降 99 年 3 月までは、今回、公表した遡及計数 (M 2 + C D 等に在日外銀等を含めないベース) を用いている。なお、96 年 1 月にレベルシフトあり。